

ホスピス Q&A

衣笠病院ホスピスは、1998年6月1日に開設され、同年7月1日に神奈川県知事の認可を受けました。その後、衣笠病院ホスピスについて、さまざまなご質問をお受けしています。その中からお問い合わせの多かったご質問をとりあげ、このQ&Aを作成いたしました。この他にもご不明な点などがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

☆ホスピスとは

Q1：ホスピスって何ですか。

A1：ホスピスは緩和ケア病棟とも呼ばれています。WHO（世界保健機関）は「緩和ケアとは、治癒をめざす治療に反応しなくなった病気の罹患者に対する意欲的な全人的医療である」と定義しています。全人的医療とは「病気だけではなく病人の全体をみる」医療のことです。これに基づいてわが国の厚生労働省は、末期がんとエイズを対象にしたホスピス（緩和ケア病棟）の設立を奨励しています。

Q2：ホスピスはがん患者が亡くなる場所なのですか。

A2：そうではありません。末期がんの患者さまが多いので、その死を安らかなものにする 것도目標のひとつではありますが、患者さまが亡くなるまでのQOL（生活の質）を高めるといことが、ホスピスの主要な目標です。ホスピスに入院して体調がよくなり、自宅にもどられる方もおられます。

Q3：衣笠病院はなぜホスピスをつくったのですか。

A3：衣笠病院は、キリストの愛による医療奉仕を行うために設立されました。末期がんの患者さまに対しホスピスを設立することが、衣笠病院の設立精神に基づく使命だと考えたからです。

☆衣笠病院ホスピスの施設

Q4：衣笠病院ホスピスはどこにあるのですか。

A4：ホスピスは衣笠病院の敷地内にあります。衣笠病院はJR横須賀線衣笠駅の裏手にあり駅から歩いて約5分のところですが、車では、横浜横須賀道路の横須賀インター、または衣笠インターから約10分のところにあります。

Q5：衣笠病院ホスピスは何床あるのですか。

A5：20床です。すべて個室で、そのうち10床が有料個室となっています。

Q6：病室はどんな部屋ですか。

A6：部屋の広さは平均約 8 畳半で、床はフローリングになっており、落ち着いた雰囲気があります。すべての部屋にはエアコンがあり、どの部屋にも電動ベッド、椅子、ウォッシュレットトイレ、洗面台、冷蔵庫、CDラジカセ、テレビ、ビデオ、ナースコールが備えられています。部屋の照明はお手元でも操作できます。また壁にはお好きな写真などを貼っていただけのボードがあります。

Q7：有料個室と無料個室とは、どこが違うのですか。

A7：部屋の広さ、一部の備品、窓からの眺めなどが違います。また、有料個室のテレビは無料でご利用いただけます。なお、室料差額などの入院費用については、Q&A22 で説明しておりますのでご参照ください。

☆衣笠病院ホスピスの入院申し込み

Q8：ホスピスを利用したいのですが、どうしたらよいのですか。

A8：入院については、医師・看護師によるホスピス面談でご相談をお受けします。ホスピス面談は予約制です。当院の医療福祉相談室で面談予約をうけたまわっております。

Q9：入院する気持ちがなければ、面談は受けられないのですか。

A9：まだ入院する時期ではないとお考えの方でも、面談を受けられます。入院の時期・在宅療養などについても、ホスピス面談でスタッフにお気軽にご相談ください。

Q10：患者本人が、面談を受けなければいけませんか。

A10：患者さまご自身がおいでになれない場合は、代理の方だけでもかまいません。患者さまがくるこないにかかわらず、ホスピス面談を受けられる際には、下記の資料をご用意ください。①現在の主治医からの診療情報提供書（所定用紙あり）②病理報告書のコピー③CT、MRI、レントゲン写真④最新の血液検査データのコピー⑤感染症に関する検査データのコピー⑥その他、主治医が必要と判断したものをご用意の上で、ホスピス面談を受けてください。手術記録のコピーも、あれば参考になります。

☆衣笠病院ホスピスの入院条件

Q11：どんな人が入院できるのですか。

A11：厚生労働省によれば、緩和ケア病棟は「主として末期の悪性腫瘍患者または後天性免疫不全症候群（エイズ）に罹患している患者を入院させる」ことができます。また厚生労働省は「医師、看護師等により入退棟の判定」を行うように指導しています。衣笠病院ホスピスでは入院の判定会議を設け、ホスピス面談を受けられた患者さまの入院をお引き受けできるかどうかを検討しております。

Q12：末期がんの人しか入院できないのですか。

A12：一般に、末期とは「生命予後が 6 ヶ月以内と考えられる段階」と定義されています。しかし、末期かどうかを判断することは、専門家でも難しいことです。衣笠病院ホスピスは、末期がんといわれていなくても、悪性腫瘍という診断が確実で、副作用の強い治療は受けたくないという方ならば、ご相談をお受けしています。

Q13：がんであることが告知されていないと、入院できませんか。

A13：原則的には、告知されていることが望ましいと思います。しかし、病名を知らされていなくても、病状やホスピスについて正しく理解されていれば、入院のご相談をお受けしております。なお、当ホスピスには「真実を語り、嘘はつかない」という基本姿勢がありますので、患者さまのご希望があれば、病名や予後についてお話する場合があります。

Q14：がん以外の人（筋萎縮性側索硬化症など）でも、入院できますか。

A14：厚生労働省は、悪性腫瘍とエイズが、緩和ケア病棟（ホスピス）の対象疾患であると定めています。筋萎縮性側索硬化症などの難病であっても、悪性腫瘍とエイズ以外の患者さまはホスピスをご利用になることができません。また、衣笠病院ホスピスでは、エイズの患者さまをお引き受けできる体制がまだ十分に整っていないので、悪性腫瘍の患者さまだけにご入院いただいております。

Q15：衣笠病院は、クリスチャンしか利用できないのですか。

A15：どのような宗教を信仰している方でもご利用になれます。クリスチャンではないことを理由に、ホスピスのご利用をお断りすることはありません。また、患者さまにキリスト教の信仰を強要することはありません。

Q16：一人暮らし、低所得者、生活保護でも入院できますか。

A16：家族がいないこと、収入が乏しいことなどの、社会的・経済的理由で入院をお断りすることはありません。

Q17：認知症状のある人でも入院できますか。

A17：副作用の強い治療を望まない悪性腫瘍の患者さまであれば、入院できます。しかし夜中に歩きまわったり、大声を出されて、他の患者さまのご迷惑になるような場合は入院の時期を検討させていただいております。

☆衣笠病院ホスピスで行う治療

Q18：ホスピスでは、治療はしないと聞きましたが。

A18：ホスピスでは、心身の苦痛を和らげる治療を行っています。治癒を目的とする放射線療法や化学療法（抗がん剤投与）などの強い副作用のある治療は行いませんが、何の治療もし

ないということではありません。症状の緩和に役立つならば、点滴などの治療もできる限り行います。

Q19：民間療法は継続できますか。

A19：原則は中止していただいておりますが、詳しくはホスピス面談時にご相談ください。

Q20：衣笠病院にある他の診療科を受診することはできますか。

A20：もちろんできます。ホスピスでは、苦痛を和らげるのに必要ならば、他科の診療を依頼しています。

Q21：延命治療はしないのですか。

A21：WHOは、「死を早めることにも死を遅らせることにも手を貸さない」緩和ケアを勧めています。「生きることを尊重し、誰にも例外なく訪れることとして死に行く過程にも敬意を払う」からです。衣笠病院ホスピスでは、延命治療は行わず患者さまが穏やかな最期を迎えられるように援助しています。

☆衣笠病院ホスピスの入院費用

Q22：入院費用はいくらかかるのですか。

A22：入院費用は、入院医療費＋食事療養費＋雑費＋室料差額の合計ですが、ホスピスでも入院医療費と食事療養費には、健康保険が適用できます。詳しいことは、添付した料金表をご参照ください。

☆衣笠病院ホスピスの入院生活

Q23：ホスピスでの日課を教えてください。

A23：決まった日課はありません。いつこれをしなければならぬというような規則もありません。面会時間の制限もありません。ホスピスでは礼拝やお茶サービスなどのさまざまな行事を行っておりますが、その参加も自由です。ただし、夜間は医療安全上、介助が必要な方の入浴や散歩などは、職員が多い日中をお願いしています。

Q24：付き添いの人はどこに寝るのですか。

A24：全室が個室なので、患者さまのそばでお休みになれます。また、家族室が二部屋あるので、ここでご家族やご友人がお泊りいただくこともできます。家族室や貸し出しベッドは有料ですので、詳細は料金表をご参照ください。

Q25：落ち込んでいる患者を精神的に援助してもらえますか。

A25：患者さまを精神的に支えることは、ホスピスの大切な仕事のひとつです。しかしながら、

精神科の専門医が常勤しているわけではないので、専門医による治療が必要な場合など、対応が困難となることもあります。

Q26：食事はどうなっていますか。

A26：病院で提供される食事以外に、共有のファミリーキッチンで調理される方もおられます。また出前をとったり、外食される方もおられます。

Q27：入浴は週に何回くらいできますか。

A27：ホスピスには、ご自分で入浴される方のための一般浴槽と、介助が必要な方のための特別浴槽がひとつずつあります。入浴には看護師がお手伝いできる昼間にお入りいただいております。したがって、介助が必要な患者さまの人数により、入浴できる回数は異なります。

Q28：外出・外泊は自由にできますか。

A28：医師の許可のもとに可能です。ただし、外出・外泊される場合は必ず申し出てください。

Q29：タバコは吸えますか。

A29：病院内は全館禁煙となります。

Q30：お酒は飲めますか。

A30：病状により制限させていただくこともありますが、ご相談ください。

Q31：ペットを連れてきたいのですが。

A31：家族同様に可愛がっているペットと過ごす時間も大切です。ペットの鳴き声や衛生管理などで、他の患者さまのご迷惑にならないようにしていただいております。また、スタッフはペットのお世話はいたしませんので、ご了承ください。

Q32：入院時に、電化製品などを持ち込むことはできますか。

A32：持ち込めない物もございますので、事前にご相談ください。

Q33：長期間入院している人もいますか。

A33：症状が安定したら、いったん退院していただく場合もあります。

Q34：短期間の入院もできますか。

A34：できます。激しい苦痛をとるために入院し、良くなればご自宅で療養する、ということもできます。

☆衣笠病院ホスピスのスタッフ

Q35：ホスピスには、医師はいるのですか。

A35：ホスピスには専任医師がおります。

Q36：身の回りの世話は、看護師さんにどこまでお願いできますか。

A36：入院生活のお世話は、基本的に看護師が行います。衣笠病院ホスピスでは、日中は 1 人の看護師が 4～5 人の患者さまを受け持ち、夜間（午後 5 時～翌朝 8 時半まで）は 2 人の看護師が患者さま全員のお世話をしております。

Q37：医師、看護師以外にどんなスタッフがいるのですか。

A37：リハビリテーション・スタッフ、栄養士、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、牧師、ボランティアなどが、ホスピスに関わりをもっています。

Q38：医療ソーシャルワーカーはどんな仕事をしていますか。

A38：ホスピスをご利用になる際のご相談だけでなく、医療費や介護の問題などのご相談も受けしています。

Q39：牧師はどんなことをしているのですか。

A39：定期的に礼拝を行い、どなたでも自由に参加していただいております。礼拝では、聖書を読み、賛美歌を歌い、牧師がお話やお祈りをして、静かなひとときを過ごしています。また、ご希望があれば病室を訪問し、患者さまやご家族と語らう時間をもつことも大切にしております。その他、クリスマス礼拝や追悼会などの行事を通して、患者さまや御家族、スタッフとともに癒しと慰めのときをもっています。

Q40：ボランティアはどんな活動をしていますか。

A40：ボランティアは、病棟スタッフと連絡を取り合いながら、受付、掃除、入浴介助、布団干し、買い物や散歩の付添、お話相手などをお手伝いしております。また、たくさんのボランティアがおりますので、グループに分かれて自主的な活動もしています。お茶をサービスしたり、クッションを作ったり、育てた花でフロアを飾ったり、季節の行事やコンサートなどを行ったりしております。

Q41：ボランティアになるためには資格が必要なのですか。

A41：衣笠病院ホスピスでは、ボランティアを希望する方に研修を受けていただいております。現在のボランティアもボランティア研修を終了した方々です。ボランティア研修は定期的に行われてはおりませんが、研修を希望される方は、衣笠病院の法人事務局にお問い合わせください。

